

## 全世界で肥満が増加 GBD2013 の解析で明らかに

2010年に肥満および過体重により340万人が死に至ると推定された。肥満の増加により、世界的に過体重や肥満の割合の推移を追っていかうとする動きがある。その傾向を把握することは集団の健康状態や健康管理対策の優先順位を決めるために必要不可欠である。そこで、本研究では世界の肥満の実態を明らかにするため、1980–2013年の世界の成人と小児における過体重・肥満率を国別、地域別に検討した。

世界各国の身長、体重のデータを含む調査や報告、論文など1,769件のデータを用いて過体重・肥満率を算出した。その結果、肥満度指数（BMI）が25kg/m<sup>2</sup>以上の過体重・肥満の成人の割合は、全世界で1980年から2013年の間に男性では28.8%から36.9%に、女性では29.8%から38.0%に上昇していた。小児や青年における過体重・肥満率も上昇しており、その傾向はとくに先進国で顕著であった；男児では16.9%から23.8%に、女児では16.2%から22.6%に上昇していた。発展途上国の小児や青年においても、男児では8.1%から12.9%に、女児では8.4%から13.4%に上昇していた。国別にみると、成人の肥満率が50%を超えていた国もあり、男性ではトンガ、女性ではクウェート、キリバス、ミクロネシア連邦、リビア、カタール、トンガ、サモアがこれに該当した。2006年以降、成人の肥満率の上昇は先進国においてはそのペースが緩徐になっている。

世界的に肥満が増加したという点だけでなく、過去33年間に肥満人口の比率を下げることに成功した国がないことが明らかになった。世界規模での対策を講じる必要がある。

出典：The Lancet. Published online before print, May 29 2014, doi:10.1016